

笑顔あふれる大戸小

大戸小マスコットすぎっぴー



大戸小だより

URL:<http://oto-e.saitama-city.ed.jp/>



開校 144 年 学校教育目標 ○かしこく ○やさしく ○たくましく

平成 28 年 8 月 29 日
学校だより 9 月号
さいたま市立大戸小学校
8 3 1 - 3 7 9 6
明治 6 年 開 校

栄光の銀メダル

校長 吉野 勇 人

今年の夏休みは、リオデジャネイロオリンピックでの日本選手の活躍を楽しみに見ていました。金メダルと銀メダル、銅メダルの獲得数は、日本のオリンピック史上最多の 41 個でした。毎日、日本選手の大活躍が報道され、胸が熱くなるとともに、つついテレビの画面にくぎ付けとなってしまいました。

時間を忘れて夢中で見た競技の中で、陸上の男子 400 メートルリレーは、強く印象に残りました。第 1 走者：山縣亮太、第 2 走者：飯塚翔太、第 3 走者：桐生祥秀、第 4 走者：ケンブリッジ飛鳥の 4 人が、日本の 400 メートルリレーの選手でした。100 メートルで 9 秒台の選手は一人もいませんが、リレーでは、勝負できました。コーチは、「技術の勝利。バトンパスワークは、世界一である。」と胸を張りました。

男子 400 メートルリレー決勝では、完璧な走りとバトンパスを行いました。予選の記録を 0 秒 08 上回る、37 秒 60 の日本新記録でした。この記録は、アジア新記録でもありました。短距離界のエースであるジャマイカのウサイン・ボルトは、決勝後、日本の 4 人のリレーメンバーに握手を求めました。金メダルを争った相手として力を認めた証拠でした。

日本は、走力で劣る分を、バトンパスの精度を高めることでカバーしてきました。次走者の手のひらに下から押し込む「アンダーハンドパス」を独自に進化させ、2008 年の北京五輪 3 位、昨年の世界リレー大会も 3 位に食い込んでいます。

日本の指導者や研究者は、短距離を席卷していたアフリカ系選手の動きを徹底的に分析し、事実を探り当てるように努めました。100 メートルで 9 秒台の選手は生まれませんでした。選手層は確実に厚くなってきています。その結果、男子 400 メートルリレーでは、2000 年のシドニーオリンピックからリオデジャネイロオリンピックの 5 大会連続で決勝に進出しています。

指導者や研究者の飽くなき探究心と、その教えを受けた選手たちの努力には、頭の下がる思いである。日本にとってよい結果として表れ、選手たちの表情も、笑顔にあふれていました。



【男子リレー 銀メダル】

不可能を可能にした日本。歴史を変えた日本に、大きな拍手を送りたい気持ちでいっぱいです。